

いよいよスタート——

財団法人 安田火災記念財団

当社は、福祉産業の重要な担い手として、損害保険業を通じて社会に大きく寄与するとともに、従来から社会福祉諸団体に対する寄附など、福祉活動に力を注いできましたが、社会福祉関係への貢献をより一層推進すると同時に、福祉諸科学（社会福祉、社会保険および損害保険など）の振興に寄与すべく、今年春の三好社長の勲二等瑞宝章叙勲を記念して、財団の設立を決定しました。

以来、4か月、鋭意準備を進め、昭和52年10月1日付で、主務官庁（厚生省）の設立許可があり、同日正式に発足いたしました。

■ 財団の概要 ■

名 称：財団法人安田火災記念財団

事務所：安田火災海上本社ビル22階

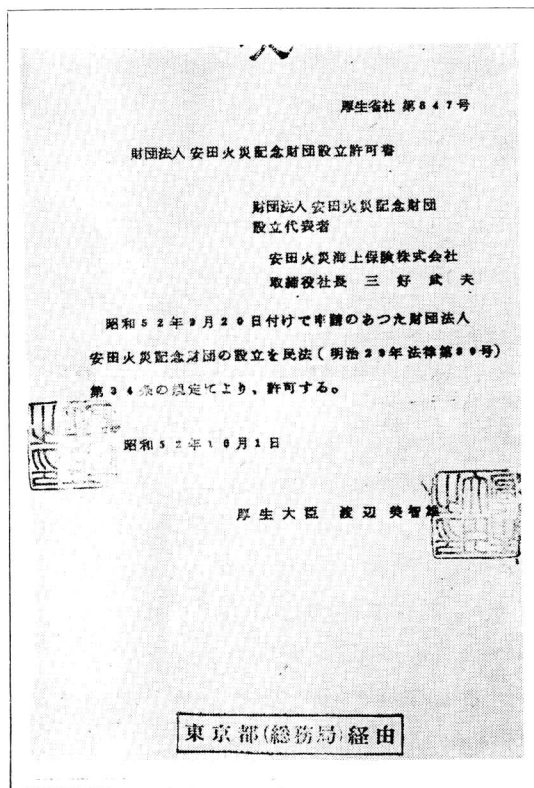
目 的：この法人は、社会福祉に関する事業または活動に対する援助を行なうとともに、社会福祉、社会保険および損害保険などに関する学術研究および文化活動の振興を図り、わが国の福祉および文化の向上に資することを目的とする。（寄附行為第4条）

事 業：この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行なう。（寄附行為第5条）

- (1) 社会福祉に関する事業に対する助成
- (2) 社会福祉向上のための活動に従事する団体および個人に対する助成
- (3) 社会福祉、社会保険および損害保険などに関する学術研究および文化活動に対する助成
- (4) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

資 産：(1) 基本財産——当初3000万円で発足し最終目標5億円になるまで7年間にわたり当社から寄附する。

- (2) 運用財産——基本財産から生じる収入で財団の事業費および経費がまかなえるようになるまで、当分の間、当社などから必要な金額（毎年3000万円程度）を寄附する。



就任された

理事・監事の方々

理事長



三好 武夫氏

(当社・社長)

副理事長



安井 誠氏

(前大蔵省証券局長)

常務理事

理事

理事

理事

監事

監事



島 健二氏

(前当社特別補佐役)



後藤康男氏

(当社・常務)



戸沢政方氏

(衆議院議員)



矢沢 惇氏

(東京大学教授)



関根鏡郎氏

(太田哲三事務所・社員)



服部公平氏

(当社・常務)

(理事・監事は五十音順)

● 名付け親 ●

この財団の名称募集には、多数のご応募をいただきましたが、検討の結果、標記のとおり決定しました。名付け親となられた方々は次のとおりです。

(1) 集計結果

応募者数135名(個人108名、グループ27名)

(2) 名付け親(敬称略)

- ① 不動産付 副長待遇
広瀬仁太郎
- ② 安技(西部)火災新種一同
- ③ 本五・沖繩 副長
谷 信 宏
- ④ 首一・江東 渡辺正作
- ⑤ 埼玉・草加 一同
- ⑥ 京都・舞鶴 一同
- ⑦ 山口・営業 主任
黒 岩 晶
- ⑧ 高松・丸亀 一同
- ⑨ 福岡・業開 一同

■ 設立趣意 ■

わが国の経済は、高度成長による目覚ましい発展から、低成長への転換という激しい経済情勢の変化を見せながら今日に至っている。

この間、高度成長に伴う矛盾やひずみが生じ、成長と福祉との乖離が見られるようになるとともに、国民の社会福祉に対する要求は高まり、社会福祉の課題は、より広がりを見せている。

福祉におけるナショナルミニマムは、社会保障として国が保障し、それを超えるものについて、大きな役割を果たすのが民間保険である。

当社は、この社会保障を補充する福祉産業としての重大な使命の担い手として、社業を通じて社会への寄与に努力を重ねてきている。しかし、今後さらに大きく社会への貢献を果たすには、従来から行なっている社会福祉諸団体に対する寄附などの福祉活動の充実とともに、社会福祉、社会保険、損害保険などの学術研究の推進をも充実させてゆくことが肝要であり、その成果を挙げるためには、別組織による実施が望ましい。

このため、当社としては、かねてより財団設立につき検討を重ねてきたが、三好社長の昭和52年春の生存者叙勲を機に、これを実現させようとの総意が結集し、このほど正式発足をみたもので、この法人の設立趣旨に賛同する有志から浄財の寄附を求めて、徐々にその規模を拡大し、社会の要請に応じて幅広い活動を営む予定である。